

全国協議会 ニュース

2016年8月1日発行 第290号

発行所：特定非営利活動法人
全国骨髓バンク推進連絡協議会
〒101-0031 東京都千代田区東神田1-3-4KT ビル3階
TEL：03-5823-6360 FAX：03-5823-6365
発行責任者：野村正満 題字：仲田順和（会長）
http://www.marrows.or.jp E-Mail:office@marrows.or.jp

全国の仲間とともに、いのちのバトン リレーを明日につなげます

5月29日(日)開催の全国骨髓バンク推進連絡協議会総会で、2015年度事業報告・決算・監査報告および2016年度事業計画・予算は、全会一致で承認されました。昨年度は25周年記念事業「日本縦断キャラバン」などを行い、今年度は財政困難な状況下であっても、全国の仲間が手を携えて必ず乗り越え、「患者・家族、ドナーへの支援活動、ドナー登録者拡大、コーディネーター期間短縮、骨髓バンクの財政安定化」などをボランティア・市民運動の立場から実現するために、あらゆる努力を続けてまいります。

今年度の基本的な活動

1 患者・家族の支援活動

- ・経済的に困難な患者・家族への支援基金の運営と助成
- ・白血病フリーダイヤルでの相談活動
- ・患者・家族の交流の場の提供
- ・ハンドブック「白血病と言われたら」の普及活動

2 ドナーの支援活動

- ・ドナー休暇制度、ドナー給付金助成制度の拡大活動
- ・パンフレット「ドナーになるってどんなこと？」の普及活動

3 社会啓発活動

- ・機関紙「全国協議会ニュース」発行
- ・ホームページによる情報発信
- ・普及啓発グッズの作成、配布活動
- ・「いのちの輝き展」「あやちゃんの贈り物展」「MAMOのメッセージ展」などの開催

り物展」「MAMOのメッセージ展」などの開催

- ・各地の各種イベントでの普及啓発やドナー募集活動など

4 より良い医療を求める活動

- ・国や議会、関係機関への陳情、要望
- ・関係学会や関係機関との交流、情報収取・調査活動
- ・医療セミナーや造血細胞バンク事業のシンポジウムなどの開催活動
- ・骨髓バンク事業のコーディネーター期間短縮、患者負担金の減額・廃止、日本骨髓バンクの財政安定化に向けての運動の展開

5 運動体の強化

- ・加盟団体や協力団体などとの連携やネットワークの強化を図る
- ・ブロックセミナーや代表者会議など

を開催し、意見交換の充実を図る
・財政基盤確立のため、組織の総力をあげて賛助会員的大幅拡大、寄付金獲得の取り組みを行う

2015年度決算・2016年度予算

収入の部	単位：千円	
科目	2015年度決算	2016年度予算
会費	2,642	3,000
賛助会費	2,832	10,000
寄附金	22,640	17,500
募金箱	3,932	4,000
販売収入	4,208	4,800
その他	290	310
④収入合計	36,544	39,610
前期繰越金	29,308	24,164

支出の部	単位：千円	
科目	2015年度決算	2016年度予算
患者支援金	3,596	10,000
製作・印刷費	4,903	3,470
行事費	7,924	1,260
交通宿泊費	3,400	3,770
通信費	2,100	2,121
事務費他	288	110
①事業費計	22,211	20,731
人件費	14,717	12,345
家賃・光熱費	3,400	3,012
交通・通信費	231	200
事務費他	1,129	986
②管理費計	19,477	16,543
⑧支出合計(①+②)	41,688	37,274
収支差額(④-⑧)	△5,144	2,336

骨髓バンクの最新情報をお知らせする

骨髄バンク NOW

《財団マンスリー JMDP(7月15日発行)より抜粋》

■日本骨髓バンクの現状(2016年6月末現在)

	5月	6月	現在数	累計数
ドナー登録者数	2,575	3,100	462,068	672,068
患者登録者数	239	282	3,338	48,345
移植例数	86	146	—	19,629

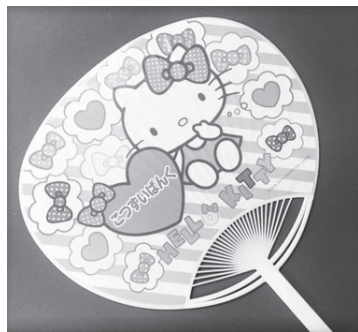
■6月の区別ドナー登録者数
献血ルーム/969人、献血併行型集団登録会/2018人、集団登録会/55人、その他/58人

注) 数値は速報値のため訂正されることがあります。

■6月の年齢別ドナー登録者数(現在数)
10代 3,432人/20代 70,139人/30代 140,973人/40代 194,745人/50代 52,779人

■6月の20歳未満の登録者486人

■6月末までの末梢血幹細胞移植(PBSCT)累計数：189件



ハローキティグッズをご活用ください!

夏秋のイベントや骨髓バンク推進月間のグッズとして「ハローキティ」のうちわ、ポケットティッシュはいかがでしょう?他にもグッズがございますので全国協議会事務局までお問い合わせください。



白血病フリーダイヤル 0120-81-5929

毎週土曜日 10時から16時まで、治療や闘病生活のお悩みのお相談をお受けします。第2・4土曜日には専門医に直接相談できます。

ソニー生命がサポートしています。

「医療現場でのドナー選択の実際」

日本赤十字社医療センター 血液内科副部長 塚田信弘



プロフィール
1967年、新潟市生まれ
1993年 新潟大学医学部卒
新潟大学大学院卒、米国・カリフォルニア留学、新潟大学病院、長岡赤十字病院、東大医科研病院、順天堂大学病院、日本赤十字社医療センターに勤務
趣味は、ラグビー

はじめに

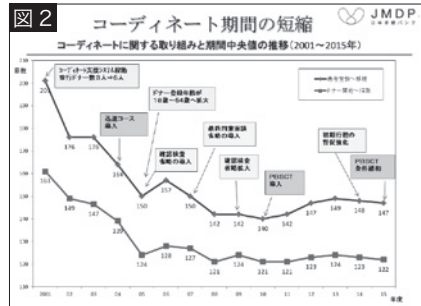
私は医学部を卒業してまもなく骨髄バンクのドナーとなる機会を得て、その後血液内科を専攻することになりました。現在は、同種移植を必要とする患者さんを医療の現場で担当しながら、骨髄バンクの骨髄採取や末梢血幹細胞採取に携わっています。先日、骨髄バンクを支援する東京の会で表題の講演をさせていただきました。ここではこの講演の内容を中心に、骨髄バンクが抱える課題について意見を述べ、また現場でのドナー選択の実際について紹介したいと思います。

骨髄バンクの財政難はコーディネイト期間の短縮で解決するのか？



288号の全国協議会ニュースには、「骨髄バンクの財政状況の視点から移植件数を増加させることが重要な課題」と書かれています。確かに2015年度では骨髄バンクを介した移植件数はさい帯血移植の件数を下回りました。骨髄バンクのコーディネイト終了の理由の中で、2010年から2014年にさい帯血移植は1.85倍(120例→220例)に、血縁・自家移植は2倍(43例→86例)に増加しています(図1)。骨髄バンクのコーディネイトを待てなかった患者さんの治療方針が、さい帯血移植や血縁の不一致移植(ハプロ移植など)に移行していると予想されます。しかし、さい帯血移植が増加したことは各移植施設の尽力によりその安全性が向上して、後に述べるドナー選

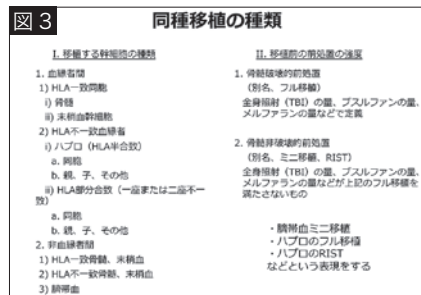
択のアルゴリズムの中で骨髄バンクを介した移植に匹敵する成績が期待出来るようになったからでもあります。



現在、患者登録から移植までの期間の中央値は147日となっています(図2)、これは我々担当医が患者さんを移植の適応と判断し治療計画の中で移植の時期を想定したときにやはり遅すぎると言わざるを得ません。コーディネイト期間が90~100日くらいまで短縮しなければ、骨髄バンクを介した移植件数の増加は望めないでしょう。

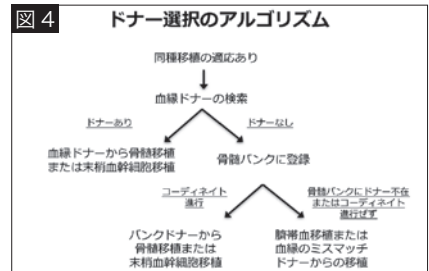
最も重要なことは、同種移植を必要とする患者さんが、その患者さんにとって最も望ましいタイミングで、望ましいドナーから同種移植を受けることにより治療に向けて病氣と闘うことが出来ることです。骨髄バンクの財政云々と関係なく、本来は骨髄バンクを介した移植が望ましい患者さんがやむを得ず他の移植に変更される事例が減ることで、移植件数が今後も維持され骨髄バンクが必要とされ続けることを切に願います。

現場の医師はどのようにドナーの選択をしているか？



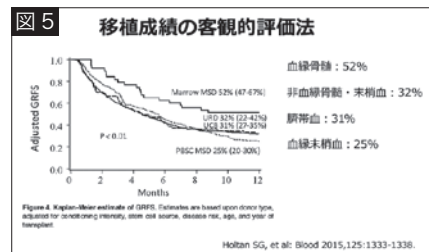
同種移植の種類を図3に示します。移植前に行う前処置の強度によって、骨髄破壊の前処置(フル移植)、骨髄非破壊の前処置(ミニ移植、RIST; reduced-intensity stem-cell transplantation)にわかれます。また提供を受

けるドナーの種類によって、HLA一致血縁者間、HLA不一致血縁者間(ハプロ移植など)、非血縁者間(骨髄バンク)、さい帯血などにわかれます。



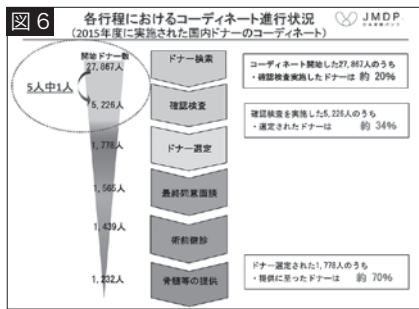
ドナー選択の際の一般的なアルゴリズムを図4に示します。担当医はより安全性の高い移植を優先的に選びます。一般的にHLA一致の同胞がいればそのドナーを選択し、2番目の選択肢として骨髄バンクを選択します。骨髄バンクに適合ドナーが少ない場合やコーディネイトが進行しない場合、さい帯血や血縁の不一致ドナーを優先させることもあります。さい帯血や血縁ドナーのメリットとして、タイミングよく移植を行えるということが重要です。骨髄バンクではドナー側の日程が最優先されますが、さい帯血や血縁ドナーでは患者側の日程を優先させることができるのです。

同種移植の新しい客観的評価法



移植成績の客観的評価法として、全生存率(OS; overall survival)、無病生存率(DFS; disease free survival)が頻用されます。一方、原疾患は寛解を維持しながらも治療を要するGVHDを患っている患者さんもいらっしゃいます。近年、GVHD-free, relapse-free survival (GRFS) という評価法が報告されました(図5)。GVHDもなく、再発もせず生存されている患者さんの割合という評価法です。この評価法では、血縁者間の骨髄移植が最も成績がよく、骨髄バンクとさい帯血がそれに続き、意外にも血縁者間の末梢血幹細胞移植の成績が悪かったという結果が得られています。血縁者間であっても

末梢血幹細胞移植では慢性GVHDの発症頻度が高いことが知られており、そのコントロールが重要となります。**コーディネイト期間短縮に向けて**



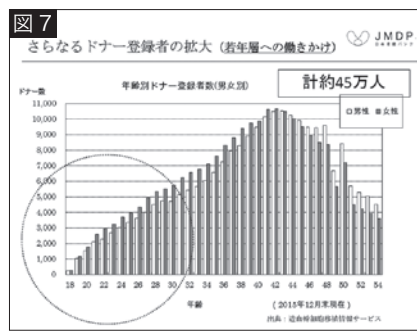
現在の骨髄バンクのコーディネイトでは一度に5名のドナー候補者を選択し、この中から確認検査に応じて下さった方がその先に進みます。骨髄バンクの資料(図6)によるとドナー候補の選択から確認検査に至る方はわずかに約20%だそうです。残りの約80%の方の中には、たまたま時期的にコーディネイト進行が難しかったという方もいらっしゃると思いますが、登録した当時からだいぶ年月が経過して既に提供の意志がない方も含まれていると思われる。登録時から社会的背景や健康状態が変化した方もいらっしゃるでしょう。このように書いている私自身も登録から約24年が経過し、そろそろバンク登録を辞退すべきかと思案中です。

私見ではありますが、最初の5名のドナー候補者を選ぶ段階で確認検査に進む確率を高めれば、初期のコーディネイト期間のロスをかなり減らせると思います。46万人の登録ドナーの中から、提供の意志のないドナー登録者は登録を解除することも必要ではないのでしょうか。またドナー候補者選択時に登録時期やこれまでのコーディネイト履歴がわかるようなシステムが構築されていれば、効率よく確認検査に至るドナー候補者を選択できるようにな

るかもしれません。

一方、ドナー選定から採取までの日数も70日以上かかっているとされており、この期間の短縮も重要な課題です。末梢血幹細胞採取の割合が増えることでこの期間は短縮されるかもしれませんが、根本的な解決とは言えませんが、地域によっては採取を必要とするドナーの数と医療機関が受け入れ可能な採取件数のアンバランスが生じていると聞いています。移植を必要とする患者さんに最短の日数で骨髄または末梢血幹細胞が提供されるよう、骨髄バンクや拠点病院が連携してコーディネイト期間の短縮に尽力して下さいことに期待しています。

アクティブドナーの増加を目指して



現在の骨髄バンク登録ドナーの年齢分布をみると40歳代前半がピークとなっています(図7)。私を含めた45歳以上のドナーは10年後には自動的に登録取り消しとなります。一方で20歳代の登録ドナーが非常に少ないことが危惧されています。消息が確認できないドナーや提供の意思が低いドナーを明確にし、一方で提供の意思の高い若年ドナーを増やすことでコーディネイト進行の可能性の高いドナー(アクティブドナーと呼ばせて頂きます)の割合が増えることも、コーディネイト期間の短縮に繋がるのではないのでしょうか。

医学部の学生の中でも骨髄バンクの

認知度は低いと感じています。20歳代前半の若年者に骨髄バンクの存在意義を浸透させることは並大抵の努力では難しいとは思いますが、造血幹細胞の提供という素晴らしいボランティアの意義を地道に伝えて行かなければならないと感じています。

おわりに

私事ですが今年の3月にあるカップルの結婚式に呼ばれて沖縄まで日帰りで行って来ました。新郎は、2003年に私が担当医として骨髄バンクを介した骨髄移植に携わった血液疾患の元患者さんです。現在彼がこうしているのも骨髄を提供して下さいだったドナーさんの勇気があってこそです。生死をかけて闘病していた彼が病気を克服して、移植から13年を経て夫婦として新しい人生を歩み始める場でスピーチさせて頂いたことは血液内科医としてそして移植医としての集大成という思いでした(写真1)。

もちろん血縁者間移植や臍帯血移植で病気を克服した患者さんもいらっしゃいますが、骨髄バンクがなければ助からなかった患者さんもたくさんいらっしゃいます。今回の財政難は日本骨髄バンクにとって試練かもしれませんが、これまでもこれからも多くの患者さんを救うための重要な役割を果たしていることを励みに乗り越えて欲しいと願っています。



[図の出展] 図1、図2、図6、図7 : 日本骨髄バンクより提供
写真1: 新郎新婦より承諾を得て掲載

今日もFightでボランティア? ⑩ バンクのイメージを... by 杉本 はるみ



ご存知ですか？「患者サロン」

血液疾患の患者さんやご家族に外出・交流の機会を持っていただこうと2013年10月から隔月で開催し、これまで延べ137人の方にご参加いただいております。ここでは治療している病院などの垣根を越え、勉強会、料理などで楽しい時間を過ごしていただければと思っています。第14回目は4月24日に江戸川区自然動物園にて「動物たちを写そう・ふれあおう」と題し開催しました。陽気の良くなるこの季節に屋外での開催は2回目です。みんなでゆったりとお弁当を食べた後は、ウサギやモルモットとのふれあいです。来場のお子さんに混じって癒しの時間を過ごしました。思い思いに散策



し、参加のプロ写真家の指導も受け、柵越しの動物も上手く撮影ができたようです。「楽しい遠足だった」との感想もいただきました。

第15回は6月26日に千葉県が誇る伝統郷土料理「まつり寿司をつくろう」に今までの最高の17人の方にご参加いただきました。講師の先生に食の安全に関するお話も頂きながら、薄焼き卵や紅ショウガを巻き重ね、太巻き寿司を作ります。切ってみると綺麗な薔



薇が現れました。フルマラソンもされるといふパワフルな先生のお話から力をいただき、楽しい時間をすごしました。初めて参加された方からは「治療で暗くなりがちの中、話ができて楽しかった」とおっしゃっていただきました。今後も皆さまからの意見をいただき、様々なイベントで楽しく参加いただけるよう開催してまいります。ホームページなどでお知らせしてまいりますので、是非ご参加ください。

ゴールドジム

「骨髄バンク・東日本大震災」チャリティイベント

「ゴールドジム 格闘技スクール発表会 2016」が、6月19日(日)東京都大田区山王・ゴールドジムサウス東京アネックス(大森)で開催され、参加者からいただいたチャリティ募金の贈呈式がありました。

空手家でもあり、K-1ファイターであった故アンディ・フグ氏が2000年に急性骨髄性白血病で35歳という若さでこの世を去りました。ゴールドジムの手塚社長さんは、長きにわたり親交があったアンディ・フグさん亡き後、同じ白血病で苦しんでいる方々のために、何かできることはないかとの思いから、2005年3月より、骨髄チャリティイベントスクール発表会「FITNESSFESTA」を年2回のペースで開催し、この発表会のチャリティ募金を、全国骨髄バンク推進連絡協議会に、また2011年からは東日本大震災の復興支援として寄付されています。

リング上での熱い思いと迫力ある格闘技を楽しませていただくとともに感動と勇気をいただきました。リングアナウンサーに紹介され募金贈呈式があり、力を込めて挨拶をさせていただきました。すべての皆様に感謝申し上げます。ありがとうございました。

全国協議会副理事長 村上忠雄



Waku Waku Saturday Night In KAMO 骨髄バンク命のアサガオにいがたチャリティー・コンサート開催

6月25日、LJ STUDIO(新潟県加茂市)でチャリティー・コンサートを開催しました。高校生以下も含め約75名の方が来場され、盛り上げていただきました。大勢の中で骨髄バンクのPRをして少しずつでも、骨髄移植を必要としている患者さんがいる事を知ってもらい、関心を持って頂けたら嬉しいです。

出演したWARNINGは、4人の若者のバンドで、うち3人が看護の専門学校に通っているそうです。当会の活

動にとっても関心をもって来て、用意したPR用の資料を持って帰って来ました。とっても嬉しい出来事でした。ご来場いただいたみなさまからとてもたくさんの寄付を頂き本当に感謝申し上げます。大切にに使わせていただきます。出演者の皆さま、スタッフの皆さま大変お疲れ様でした。NPO法人 骨髄バンク命のアサガオにいがた 高野由美子

賛助会員の皆さま紹介(敬称略)

【一般賛助会員】

富澤洋=北海道▽屋部登志雄=東京▽千脇宏美=神奈川▽十日町商工会議所=新潟▽山本照彦=岐阜▽柳瀬美耶=熊本

【サポート会員】

福島幸隆=秋田▽井上文乃=東京▽小林清治=岐阜

心からのご寄付に感謝申し上げます ●6月21日~7月20日(敬称略)

株式会社 THINK フィットネス	現金	5,000円	三森 裕	現金	30,000円
現金 831,671円	●白血病患者支援基金		日根 和美	現金	10,000円
株式会社神戸サンソ	現金	500,000円	●募金箱		
現金 500,000円	小野塚 照直	現金	骨髄バンク GATHER の会	現金	1,015円
寺元 義人	現金	30,000円	●佐藤さち子患者支援基金	株式会社サカタのタネ	花統括部
藤波 敬子	現金	10,000円	神奈川骨髄移植を考える会	現金	287,065円
石橋 義之	現金	10,000円	公益財団法人 大原記念倉敷中央医療機構	ホームセンターコーナン 泉北店	現金
塩谷 圭	現金	1,000円	トリイ ハルヒコ	現金	5,091円
山村 詔一郎	現金	2,280円		●かざして募金	
中野 克子	現金	30,000円		現金	2,000円
佐々木 彰悟	現金	1,000円			

活動資金の支援をお願いします

銀行口座 三井住友銀行 新宿通支店 普通 5666655

郵便振替口座 00150-4-15754

口座名: 特定非営利活動法人 全国骨髄バンク推進連絡協議会